

わたし

ち ち

私たちの父よ

——「主の祈り」の黙想と分かち合い——

” ^{かみ}神が^{おんちち}御父であるということ。これは^{ふくいん}福音の^{かくしん}核心であり、
これこそが「^しよい知らせ」にほかなりません。”

イギリスの著名な^{スピリチュアル・ライター}霊性著作家 ルース・バロウズ
(カルメル会シスター)。彼女の手引きによって
「主の祈り」の一句一句を黙想し、感想を
分かち合っていきます。日常生活の中に神を
見いだす信仰の道を学んでいきましょう。
信者ではない方もどうぞご参加ください。



ルース・バロウズ
(1923-2023)

日時

毎月 第3土曜日 15:00～17:00

(2025年11月15日～スタート)

場所

カトリック上福岡教会 1階 集会室

(〒356-0004 埼玉県ふじみ野市上福岡1-11-23)

テキスト

Ruth Burrows OCD, *Our Father: Meditations on the Lord's Prayer*

* 日本語訳のプリントをお渡しします。

* 一年くらいかけて、ゆっくりじっくり読んでいきます。

* 原文は、<https://openlibrary.org/> にて無料で読むことができます。

参加費

プリント代 500円 (初回のみ)

申し込み・問い合わせ

原田 (080-1062-6093) まで

著者ルース・バロウズについて

ルース・バロウズはペンネーム。本名はレイチェル・グレゴリー。イギリスの女子カルメル修道会のシスターです。カトリック系の^{スピリチュアル・ライター}霊性作家として知られ、その思想は宗派を超えた多くの人々から高い評価を受けています。

1923年に敬虔なカトリックの家に生まれました。オクスフォード大学への入学資格を得たものの辞退し、1941年に18歳でカルメル会に入会。長年ノーフォーク州クィデナムの修道院で修道院長を務め、第2バチカン公会議後の修道院の改革に尽力します。親友のシスター・ウェンディー・ベケット(BBCテレビの美術解説者として有名)の勧めで1975年に自伝『生ける神の御前に』を出版。ほかに『神秘的祈りのガイドライン』や『祈りの本質』など、十数冊の著作があります。2023年11月10日に、100歳で神のもとへ召されました。

彼女の著作には独特のテイストがあります。一言で言えば、彼女は、ごまかしのない、真理に立つ人です。その著作は、彼女自身の長年の修道生活、その生身の体験の中から紡ぎ出されたものです。彼女は幼少期から、人間の傷つきやすさ・はかなさ、神と人間との間に横たわる深淵、神の不在を味わってきました。が、17歳のとき、静修の折に、最も深い内奥で神の存在を確信します。この回心によって彼女はカルメル会への入会を決意したのでした。しかし、その後も、彼女の内的体験はまったく変わることがありませんでした。体験として、相変わらず、神は不在のままでした。が、リジューの聖テレーズ(1873-97)の影響などもあり、次第に彼女の内に根本的な発想の転換が起こるようになります。すなわち、人間の、この貧しさをありのままに受け止め、信頼のうちに、^{から}空の手で神の御前に立つこと。そのとき初めて、神は私たちにご自身を十分に与えることができるようになるのだ、と。^{せきら}この赤裸な貧しさの内にこそ、神の愛は注がれます。この真理は、イエスの人物、その生涯の内にはっきりと啓示されています。この根本的洞察が、彼女の霊性の中核を成しています。それを、「キリストを中心に据えた、全面的信頼の霊性」と呼ぶことができるでしょう。

『タブレット』誌に掲載された訃報の中で、彼女は「私たちの時代の大テレジア」と形容され、その業績がたたえられています。

(文責 原田)